

「内航船の日」直前

# 業界紙・誌からの 応援に感謝

第7回目の「内航船の日」を前に、今年も多くの業界関係者から記念イベントの告知などで応援をいただいております。ありがとうございます。

業界新聞の「内航海運新聞」はもちろん、「海事プレス」、「ジャパン SHIPPING ニュース」、「海上の友」などの紙媒体メディアのほか、ネットでは船舶職員の公益団体「全日本船舶職員協会」や、内航海運事業者の船主組合「全国海運組合連合会」なども HP で記念日「内航船の日」を発信してくれています。

7月15日の記念日当日には、恒例の「#内航船の日」ハッシュタグを使った twitter の投稿でより盛り上がることを期待しています。今年は内航船社のアカウントも増えていますので、自由に会社の PR などを発信される機会にもなればと楽しみにしております。

記念日「内航船の日」は、海運世界と陸の市民社会との貴重な接点です。一般の方からの応援も大切に受け止め、島国の内航海運産業の未来に繋げていきましょう。

今回、デイリージャパン SHIPPING ニュース (2022年6月27日号) の名物ページ「黄色いページ」に、「内航船の日」の特質を非常に分かりやすくとらえている有り難い記事を見ましたのでご紹介させていただきます。資料として記事を転載し、ご報告いたします。

(全日本内航船員の会 事務局)

ジャパン SHIPPING ニュース (令和4年6月27日号) の記事を紹介いたします。以下転載



## <黄色いページ>

6月25日は「船員デー」。この新聞が皆さんのお手元に届くときにはもう過ぎてしまっているが、それでも「忘れていた」という方には、ぜひこのコロナ禍で大変な目に遭いながらも物流を、そして我々の生活を支え続けてくれた船員への感謝の思いを新たにしていきたい。今年のテーマは“Your Voyage - Then & Now Share Your Journey”一すなわち、「これまでとこれからの航海を共有しよう」というものだ。船や働く姿、海の写真等が SNS 等で共有されているが、これまでの航海を知ること、これからの船員に心を寄せること。それが、このテーマが目指す「航海の共有」なのだと思う。知床遊覧船の事故が発生した一つの要因として、陸の人間と海の人間の「共有」ができていなかったことも大きいのではないだろうか。安全な海上物流とは何か。脱炭素や自動運航、DX といった議論が進む中、その中心にいる船員に寄り添った考え方を忘れてはならない。日本では7月15日に「内航船の日」を迎える。内航船は国内物流を支えている一方、船員の高齢化等、多くの問題を抱えている業界でもある。我々が当たり前前に享受している日々の生活は、彼らなしでは成立しないのだということを改めて肝に銘じ、その活躍に感謝しよう。